

## お泊まりデイ、3年で26人死亡…誤飲・徘徊で

「お泊まりデイ、3年で26人死亡…誤飲・徘徊で」の記事をお探しですか？[最新関連記事が10+件](#)あります。

### 死亡事故の例

2010年度	90歳の女性が夜間出歩き、敷地内の庭で死亡した状態で見つかる(世田谷区)
12年7月	80歳の男性が夕食時に食べ物を詰まらせ、窒息死(大阪市)
9月	70歳の男性の病状が急変し、救急搬送後に死亡(足立区)
13年3月	85歳の女性が早朝、臨終が起床の声を聞いたところ、既に死亡していた(練馬区)
	90歳の認知症の男性が夜、洗面台の下にあった消毒液を誤飲し、死亡(相模原市)

全国の政令市と県庁所在地、東京特別区の計74市区にある通所介護事業所(デイサービスセンター)の宿泊サービス「お泊まりデイ」で、宿泊時間帯に起きた転倒や誤飲などの事故が2010年度以降少なくとも296件あり、26人が死亡していたことが読売新聞の調査でわかった。

お泊まりデイは介護保険の適用外のため、施設側に事故の報告義務はなく、厚生労働省は「これまで夜間の事故の実態は把握していなかった」としている。同省は15年度からお泊まりデイを都道府県への届け出制とし、事故についても報告させる方針だ。

調査は昨年12月、20政令市と、政令市を除く県庁所在地の31市、東京23区にアンケートを送付して実施。すべてから回答を得た。

その結果、死亡事故は、食べ物を気管に詰まらせる<sup>ごえん</sup>誤嚥による窒息が9件と最も多く、就寝中の体調急変が6件。認知症患者が消毒液を誤飲したケースや、

はいかい徘徊して屋外で死亡したケースもあった。負傷事故では、転倒・骨折が目立ち、薬の誤投与、食中毒などもあった。

(2014年1月19日11時51分 読売新聞)